

Rice Lodge Ohgata

提携米通信

大震災特別号・黒瀬農舎

地震お見舞い申し上げます。

この度の大地震で被害に遭われた方ご無事でしょうか。心よりお見舞い申し上げます。私たちの地域は、大きな揺れがありましたが幸いにも直接の被害はありませんでした。

我が農舎へメールや電話でお見舞いを頂いたり、ご心配をお掛けした方々に感謝致します。ありがとうございました。

また、荷物の荷受け停止でお米のお届けが混乱していることをお詫び申し上げます。この「特別号」では、地震関連のご連絡や状況をお伝えします。

電話・メールなどの通信状況

地震後は電気が2晩ストップ。このため電話やFAX、インターネット、メールなども不通となりました。停電が回復した後も5日間は、光通信の回復遅れと、固定電話、携帯電話共に通信量のオーバーで、時々着信は出来る時がありますが、当方からの発信は、ほとんど出来ない状態が続きました。

3月16日になって、これらの通信混乱はほぼ解消されましたが、でもまだ時々つながらない時もあります。

お届け荷物の状況

地震当日の11日に出荷したお米は、各運送業者の秋田支店でストップした後、13日に秋田支店から被災地を除く各地に運ばれた模様です。

地震翌日の12日から本日18日までは、各運送会社共に荷受け全面停止中です。

これは、道路事情よりも、燃料不足が原因です。燃料は関東地方も混乱しているようですが、当地秋田は激震地に近いことで、県内の燃料が被災地に移送されているために極端に不足して、ガソリンスタンドは、早朝から数時間並んで10%の制限給油。その上毎日10時頃にはどこのスタンドも早々と閉店です。

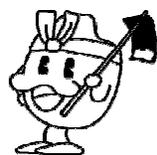
我が家でも、孫の保育園の送迎は徒歩で車利用は自粛です。しかし、お米の方は倉庫の被害もなく原料も十分ありますので、運送が回復すれば直ぐにお届けできる状態です。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友 基



Tel 0185-45-3088 Fax 45-2887

E-mail: akita@kurose.com

HP検索: [黒瀬農舎](#)



今後のお届け見込み

現在の（3月18日）情報では、荷受けが再開されるのは来週中頃過ぎ（24日頃）になる見込みですが、更に延びる可能性もあります。

また、再開されても1週間ほどは配送日数が余分にかかると思われます。

目下、一般の運送再開よりも一日も早くお届けできるように種々手当をしており、明日以降、運送会社を分散するなど色々の方法で、出荷を試みます。

従って、この対策が成功しない可能性もあり、また、出荷は受注順に行いますが、到着は前後することも予想されます。なお、荷作り後出荷までの日数が1週間を超える荷物がお届けされることもあります。どうぞお許し下さるようお願い致します。

被災地の方への対策

地震の直撃を受けられた宮城、福島、岩手と青森の一部の地域の方々には、何度もお見舞いの電話など試みましたが、無理でした。

無事に届くかどうか心配しながら14日に、お見舞いと支援策の一部をお伝えするハガキを発送し、また枠内に紹介のご案内をHPにも貼りました。

被災された皆さんへ

お米作りをご支援頂いてきた皆さまのご無事を祈りながら、我が農舎では、次のような支援策を準備致しました。

- 1, お住まいが大きく損壊、勤務先やお仕事に大きな支障が生じたなどの方の中で、ご希望の方に限って、前年度にご利用下さった同時期に同量のお米を、とりあえず向こう1年間無料でお届けする対応を始めます。
- 2, これは大きな被害を受けられた方への当面の心ばかりの措置であり、十分なご支援とは、ほど遠く失礼とは存じますが、ご活用下さい。
- 3, 生活基盤を破壊され、この措置をご利用希望の方は、お申出下さい。（お申出があった場合にのみ対応します。またこの場合、地震前後にすでに発送済みのお米も、遡って精算して同様の措置をとらせて頂きます。）
- 4, なお、家屋損壊や原発避難される場合は、我が農舎のロッジを一年程度は無料開放し、食事材料も提供します。
- 5, 災害復興の当分の間「お子さんだけを預かって欲しい」場合なども相談に応じます。
- 6, これらは、申し訳ありませんが、いずれも1年以上前から我が農舎のお米を継続的に利用下さった方に限定させて頂きます。

ガキを発送し、また枠内に紹介のご案内をHPにも貼りました。

支援策の対象は、ロッジのスペースや経済的な限界がありますので、我が農舎の提携米を「親戚」のように長年支えて下さってきた皆さんに限定させて頂きます。どうぞご理解をお願いします。

そしてご活用下さい。

ところで、昨日友人が「石巻市に入り、救援ボランティア活動をしているが、食べ物と燃料がない。被災者が寒くて震えているので布団など欲しい。」と突然訪ねてきました。

早速、ロッジの布団・毛布のほとんどと、防寒着やお米などをワゴン車に積み石巻に向けて送り出しました。

「救援者は被災地に入れない。」などと報道されていますが、地震

翌日から現地で活動してきた友人は「現地では一人でも多くのボランティアが欲しい。」と報告しています。このように報道と実態との大きな違いに驚いているところです。

（平成23年3月18日作成）